今月のことば　　令和4年（2022）2月　<No.186>

「恩を知る」ご利益

親鸞聖人の主著『教行信証』には、お念仏をいただいた者が生きている間に得ることのできる、１０個の“ご利益”があると書かれています。

そのなかに、「知恩報徳の益」というものがあります。

「私がいただいている御恩を知り、その徳を知らされる」ことが、“ご利益”だというのです。

「恩を忘れるな」とはよく聞きますが、「恩を知ることがご利益である」とは一体どういうことなのでしょうか？ 逆に「恩を知らない」ことで何が起こるかを考えてみましょう。

マイケル・サンデル（ハーバード大教授）　日本の若者との対話を載せた新聞記事 より

能力主義の勝者は、**たまたま学べる環境にいた幸運を忘れ、「努力が足りない」と敗者への謙虚さを失いがち**…。勝者が自分の成功は自分のおかげだと思ってしまうと、自分より恵まれない人を見下す傾向があります。 そしてそれは、勝者の間にある一種のプライド、一種の思い上がりを生み出します。そして、負けた人のやる気を失わせます。こうして社会はバラバラになっていくのです。

おおた としまさ（教育ジャーナリスト）　塾選びで人生が決まる現状を問う新聞記事 より

そもそも偏差値で表される学力によって社会的地位が決められてしまう社会構造が、根本的な問題だと思います。…教育は個人のためだけにあるわけではないのに**「頑張った自分は教育で得たものを独り占めしていい」と考えている人も多い**。恵まれた環境で得たものを世の中に還元する、という価値観を親も子も持って欲しいと思います。

努力で何かを手にすることは素晴らしいことですし、達成感も得られます。しかし人間の限りある知恵を、あたかも万能であるかのように考え、それを身につけたことで他を見下す者を、仏教では「邪見憍慢（じゃけんきょうまん）」と表します。他人を見下す、他の家族を見下す、他の仕事を見下す、他の世代を見下す、他の国を見下す…。憍慢には、際限がありません。

親鸞聖人は「遇；たまたま」という言葉をよく使います。多くのご縁に恵まれて、たまたま生かされている命であることを示す言葉です。

私を生かしている“無限のはたらき”を「阿弥陀如来」と喜び、「自らの手柄は一つもない」と謙虚に生きたのが、私たちの宗祖です。私がいただいている大きなご恩に気づくことができることは、憍慢に陥らない「ご利益」なのです。

アンケラ・メルケル（元ドイツ首相）　講演集『わたしの信仰』 より

謙虚とは無気力の謂（いい）ではなく、無限を知ったことから生まれる、ポジティブで希望にあふれて「生（いのち；筆者註）」を形成する感覚です。

慧日山 真光寺